

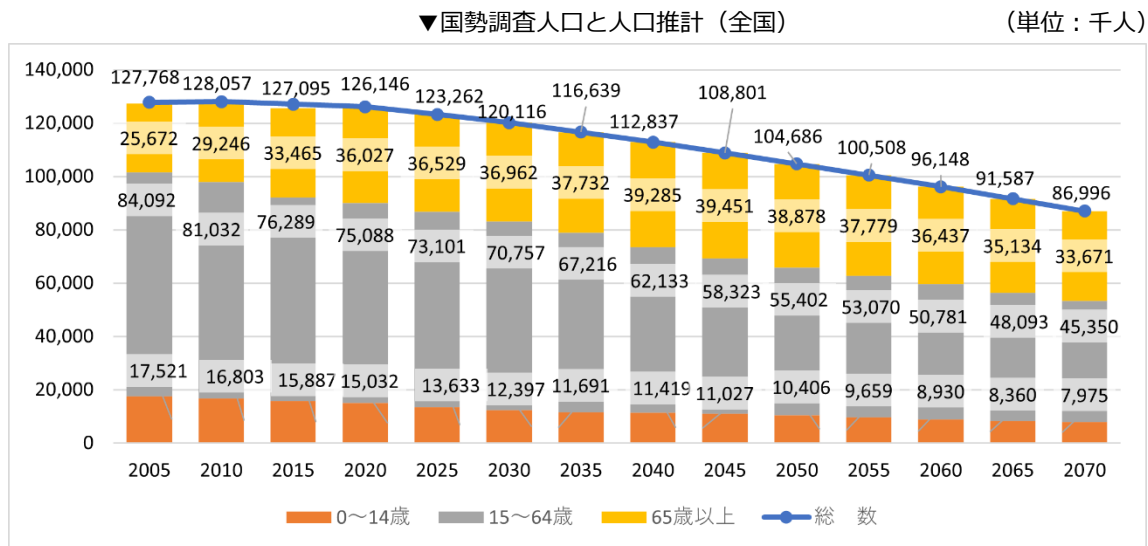
第 1 章

本市を取り巻く状況と課題

1. 社会経済情勢の変化

(1) 全国的な人口減少、高齢化社会の進展

- 我が国の人口は、少子高齢化の進展とともに、平成 20 年(2008)をピークに減少局面に移行しており、今後 30 年間で約 2 割の人口減少が見込まれています。
- 老年人口の伸び率は鈍化する一方で、15 歳から 64 歳までの人口は今後 30 年間で約 3 割減少すると見込まれています。



出典：「国勢調査結果」（総務省統計局）及び社人研将来推計人口（全国）を基に出雲市作成

- 人口減少等により、まちづくりへの次のような影響が懸念されています。

＜人口減少・高齢化によるまちづくりへの影響＞

市街地の拡散	都市のスポンジ化	公共交通機関の維持
多くの地方都市においては、住宅や店舗が郊外に立地し、低密度な市街地が広がることで、市民の生活を支えるサービスの低下や一人当たりの負担の増加が懸念されています。	市街地において小さな敷地単位で空き家・空き地などの低未利用な土地が発生する「都市のスポンジ化」が進行しており、生活利便性の低下や治安・景観の悪化などが問題となっています。	鉄道や路線バス等の公共交通機関の利用が減少している中、事業者の経営環境の変化による廃線や運行回数の減少等が発生しており、持続可能な公共交通の構築が求められています。

- 人口減少・高齢化の急速な進行により顕在化した様々な課題に対して、国は、拡散した市街地をコンパクト化（拠点化）して各拠点を公共交通ネットワークで結ぶ「コンパクト・プラス・ネットワーク」によるまちづくりを推進しています。

(2) 観光を取り巻く状況

- 国内旅行消費額は、令和 5 年(2023)に令和元年(2019)比 99.8%まで回復し、国内旅行者一人当たりの旅行支出は、同年比で 17.8%増加しました。
- 訪日外国人旅行者数は、コロナ禍を経て堅調に回復し、令和 5 年(2023)は令和元年(2019)比 78%まで回復しました。訪日外国人旅行者の旅行消費額は、過去最高の 5.3 兆円を記録し、一人当たりの旅行支出は、約 21 万円（令和元年(2019)比 34.2%増）となっています。

(3) 災害の激甚化・頻発化

- 近年の気候変動による降雨量の増加等の影響により、激甚な水災害が全国各地で発生しており、今後さらに激甚化・頻発化することが懸念されています。
- 国は、河川改修、砂防ダムの整備、建築物の耐震化等のハード整備と避難体制の整備やハザードマップ等による災害リスクの周知徹底などのソフト対策が一体となった防災・減災の取組を進めるとともに、河川流域の関係者の協働による「流域治水」の取組も進めています。

(4) 環境問題への関心の高まりと持続可能な社会の実現に向けた取組

- 近年、世界的に地球温暖化の危機感が高まり、2015年の国連気候変動枠組条約第21回締約国会議（COP21）で採択された「パリ協定」では、今世紀後半における人為的な温室効果ガス排出の実質ゼロを目指すとして、世界全体で脱炭素社会の構築が進められています。
- 国は、2020年に「2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現」を宣言し、2021年には「2030年度に温室効果ガスを2013年度比46%減」が表明されました。
- 本市においても、2021年5月に「2050年二酸化炭素排出実質ゼロを目指し、“ゼロカーボンシティ”に挑戦すること」を宣言しており、取組を加速する必要があります。
- 2015年の国連サミットにおいて持続可能な社会を実現するための17のゴール、169のターゲットとして「持続可能な開発目標（SDGs）」が定められ、誰一人として取り残さない世界の実現に向けた取組が、官民連携により進められています。

(5) 価値観や生活様式の多様化

- 生活水準の向上や情報通信環境の進歩、グローバル化などにより、様々な価値観や生活様式が生まれています。
- 女性や高齢者（65歳以上）の就業率が増加しており、育児や介護との両立、夫婦の共働きなど、仕事と家庭との関係が多様化してきています。
- 物質的な生活の豊かさに重きを置く「物の豊かさ」と、精神的な心の豊かさや余裕・ゆとりのある生活を求める「心の豊かさ」について、「心の豊かさ」を重視する傾向が強まっています。

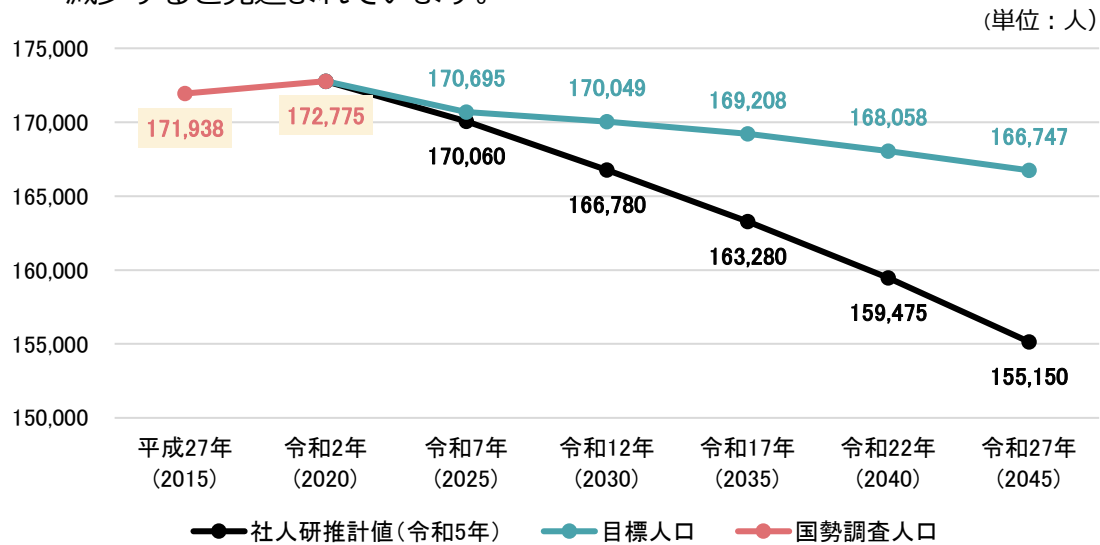
(6) デジタル技術を生かしたスマートシティの推進

- 民間事業者や大学等の研究機関と行政との連携により、人工知能（AI）、ロボットや自動走行車などのデジタル技術をまちづくりに取り込み、少子高齢化などの都市が抱える課題の克服を目指す取組が進められています。

2. 出雲市の現状

(1) 人口

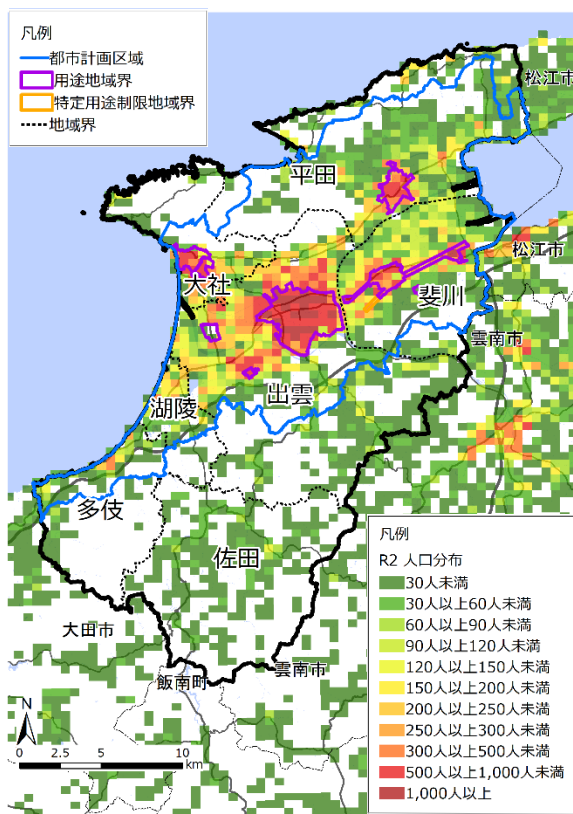
- 平成 27 年(2015)から令和 2 年(2020)の間は人口が増加していますが、今後は人口が減少すると見込まれています。



出典：国勢調査結果（総務省統計局）及び社人研将来推計人口（令和 5 年推計）を基に出雲市作成

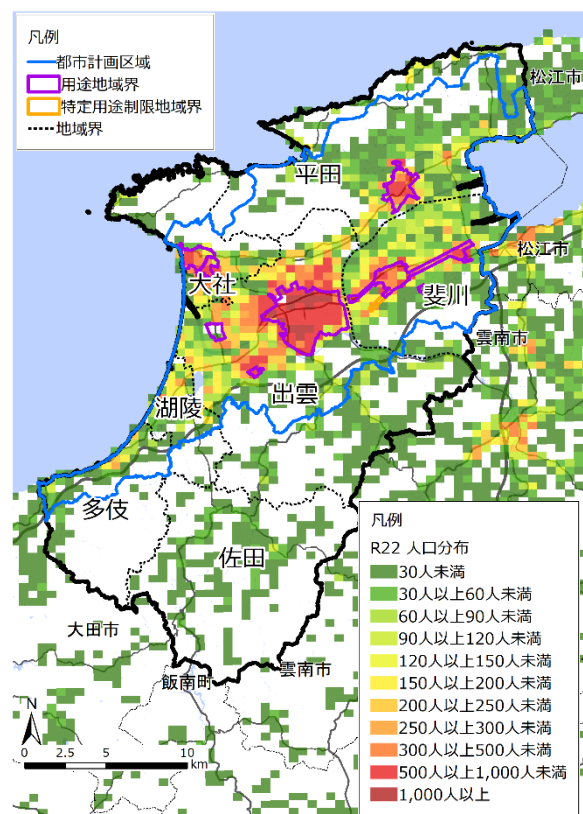
- 用途地域や行政センター周辺で人口が集中しています。また、国の将来人口推計による令和 22 年(2040)の人口分布でも、これらの地域で人口の集中が保たれています。

▼人口分布（令和 2 年（2020））



出典：国勢調査結果（総務省統計局）

▼人口分布（令和 22 年（2040））

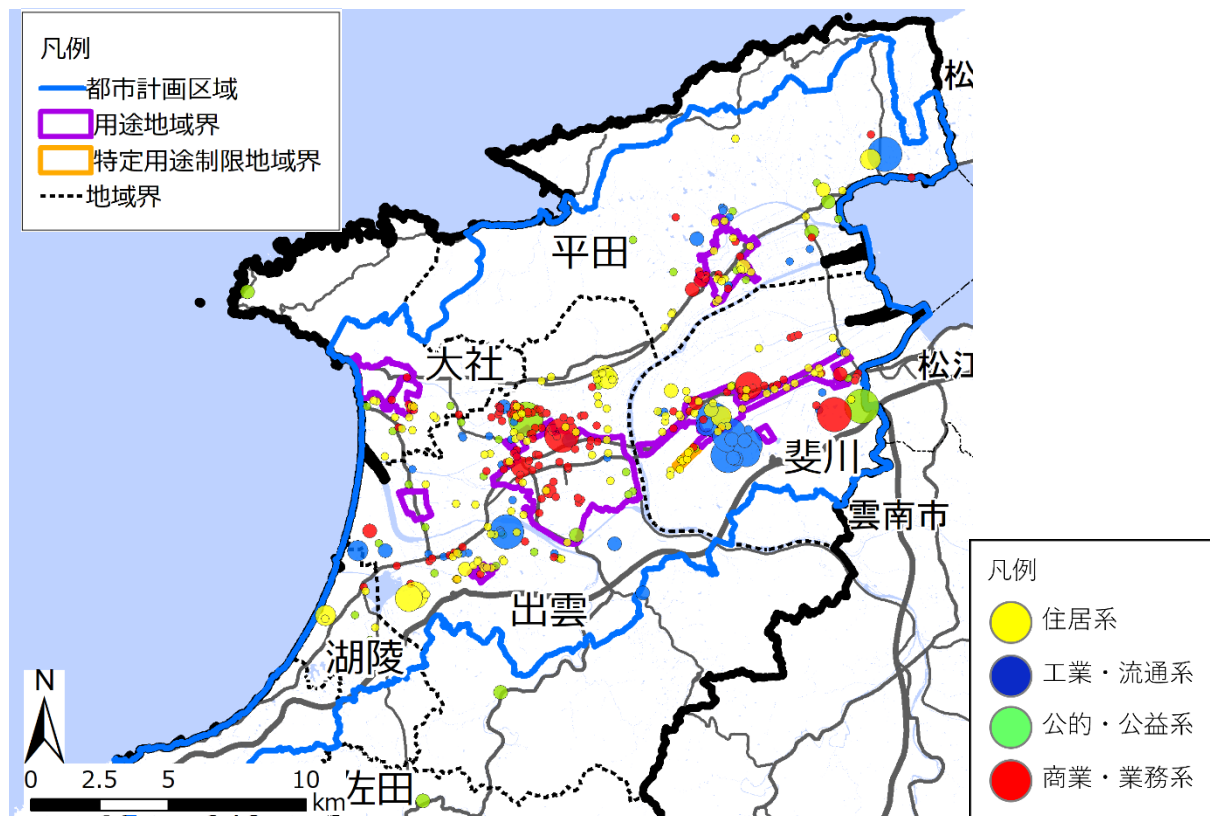


出典：国土数値情報

(2) 土地利用

- 出雲地域の用途地域内の北部及び用途地域の北側で商業・業務系の開発行為が多く見られます。
- 斐川地域では、大規模な工業系の開発行為が用途地域の南側に集中しています。
- 用途地域内で特に新築が多くなっていますが、平野部の広い範囲で新築が見られます。

▼開発許可分布（1975年～2024年）



出典:出雲市資料

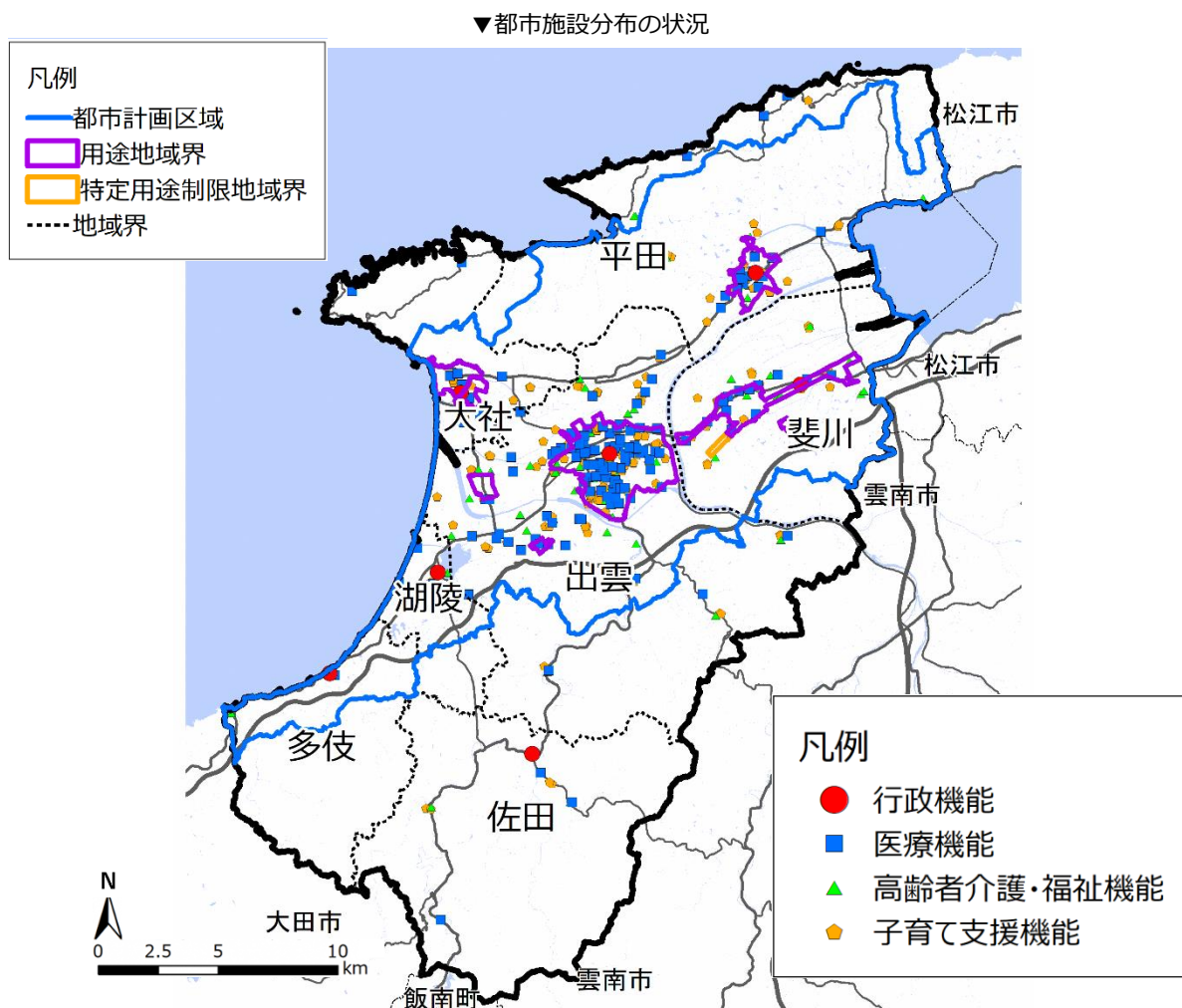
▼新築分布（2011年～2022年）



出典：出雲市資料

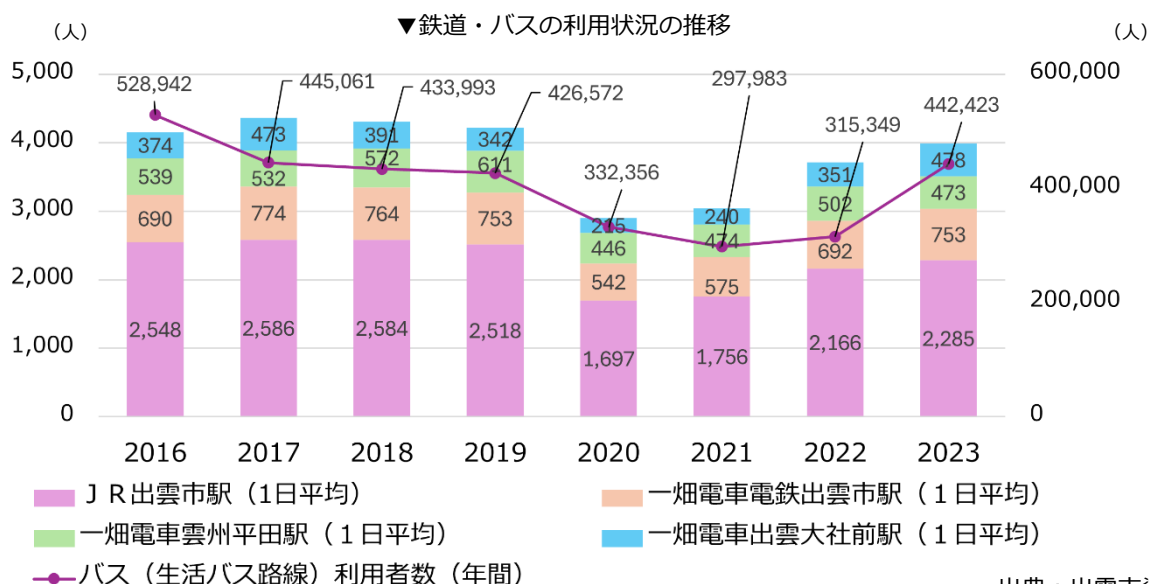
(3) 都市施設・公共交通

- 行政サービス、医療・高齢者福祉、生活支援機能は各用途地域及び行政センター周辺に多く分布しています。



出典:出雲市資料

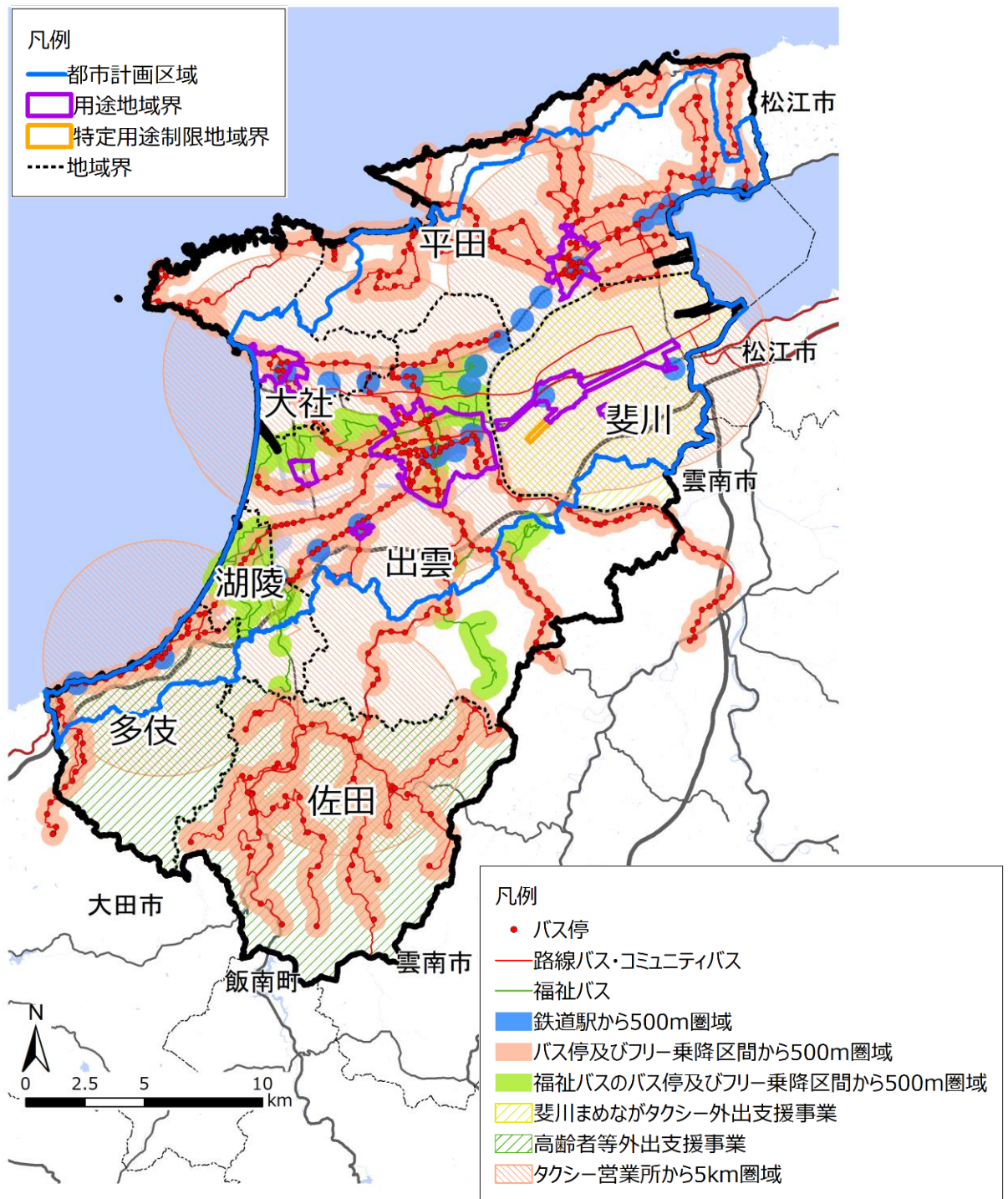
- 主な鉄道駅利用者数はコロナ禍により減少しましたが、令和3年(2021)以降、回復傾向にあります。
- バス（生活バス路線）の利用者数は、令和4年(2022)以降増加傾向にあります。



出典：出雲市資料

- 斐川地域などで、鉄道駅、バス停等から徒歩圏（500m圏域）で公共交通が利用しにくいエリアがみられます。

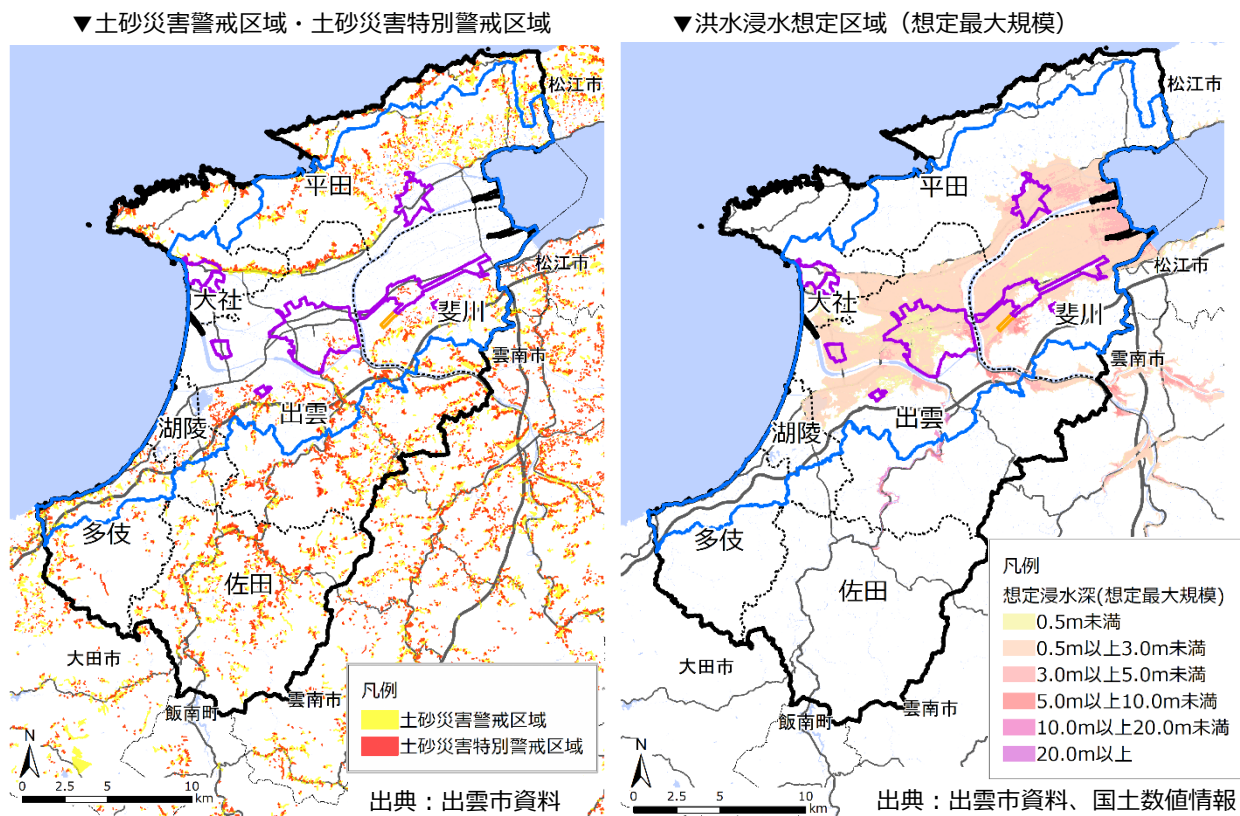
▼公共交通カバー状況



出典：出雲市地域公共交通計画

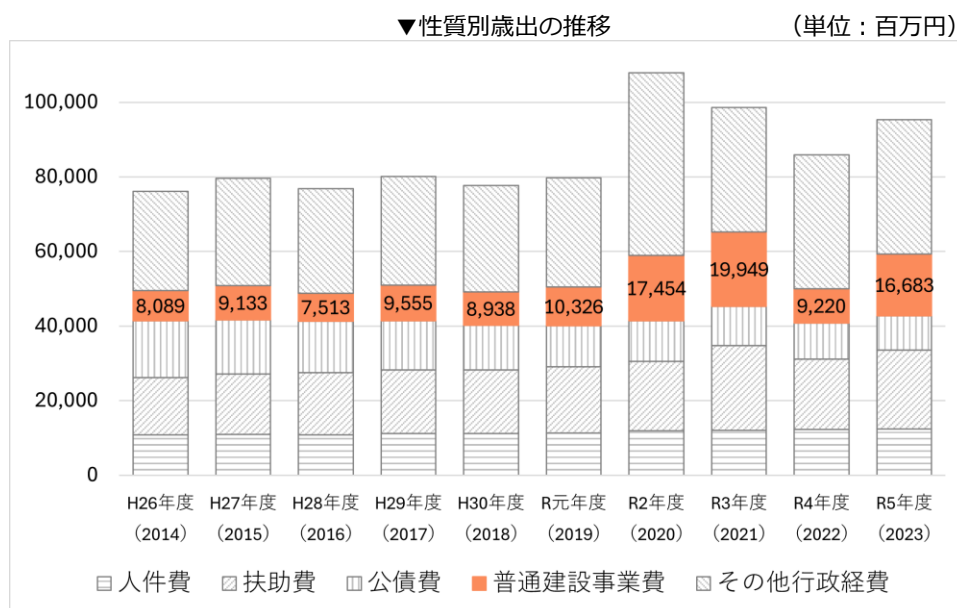
(4) 災害リスク

- 土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域は、出雲平野の北側及び南側の麓部、山間部の河川及び溪流、国県道沿道など多数指定箇所があります。
- 出雲地域、平田地域、大社地域、斐川地域の用途地域内において土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域の指定箇所がみられます。
- 平野部の多くの区域は、3 m未満の洪水浸水想定区域に指定されており、宍道湖畔では、5m未満の洪水浸水が想定されています。



(5) 財政

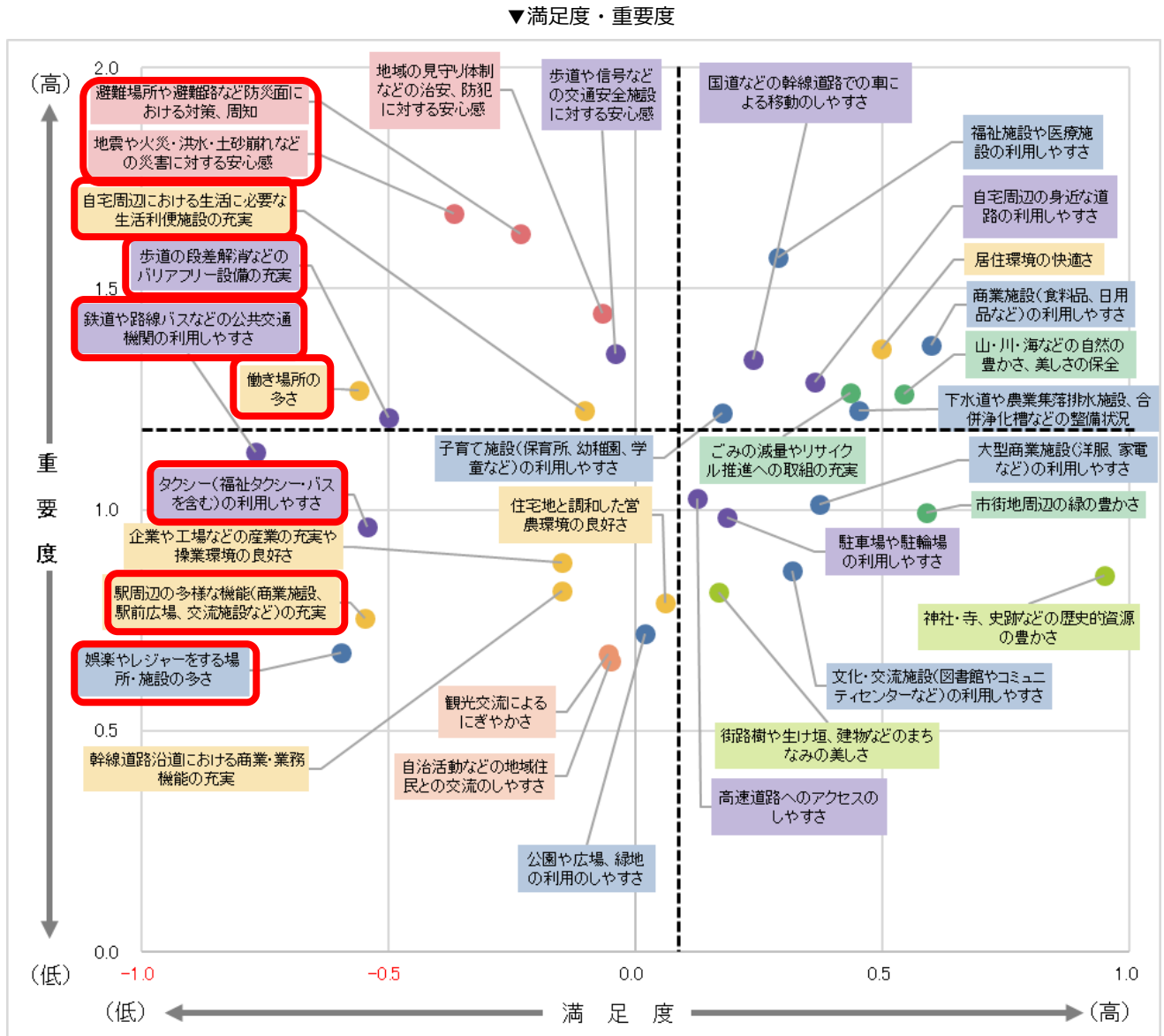
- 令和2年度以降、性質別の決算状況では、普通建設事業費の支出額は扶助費に次いで多い傾向にあり、全体に占める支出割合も高くなっています。



3. 市民意向

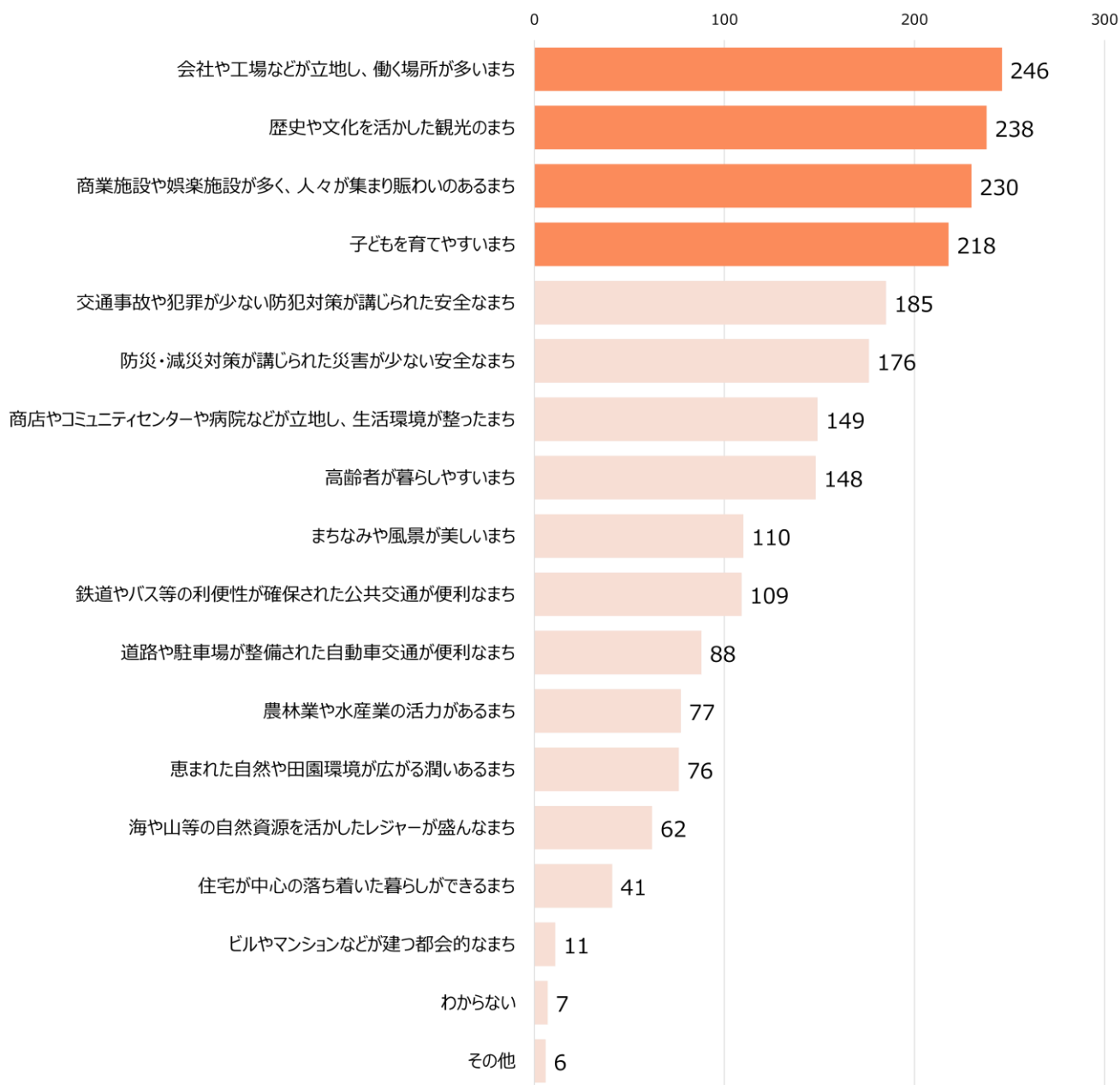
(1) 市民のニーズ（市民アンケート）

- 駅周辺の多様な機能の充実、災害対策、働き場所の多さ、公共交通の利用しやすさに対する満足度が低くなっています。
- 日常生活における安心・安全や身近な生活環境の快適さの重要度が比較的高くなっています。



- 「会社や工場などが立地し、働く場所が多いまち」、「歴史や文化を生かした観光のまち」、「商業施設や娯楽施設が多く、人々が集まり賑わいのあるまち」のほか、「子どもを育てやすいまち」を望む意見が多くなっています。
- 年代別では、10～30代からは「商業施設や娯楽施設が多く、人々が集まり賑わいのあるまち」、20～30代からは「子どもを育てやすいまち」、50～60代からは「高齢者が暮らしやすいまち」を望む意見が多くなっています。

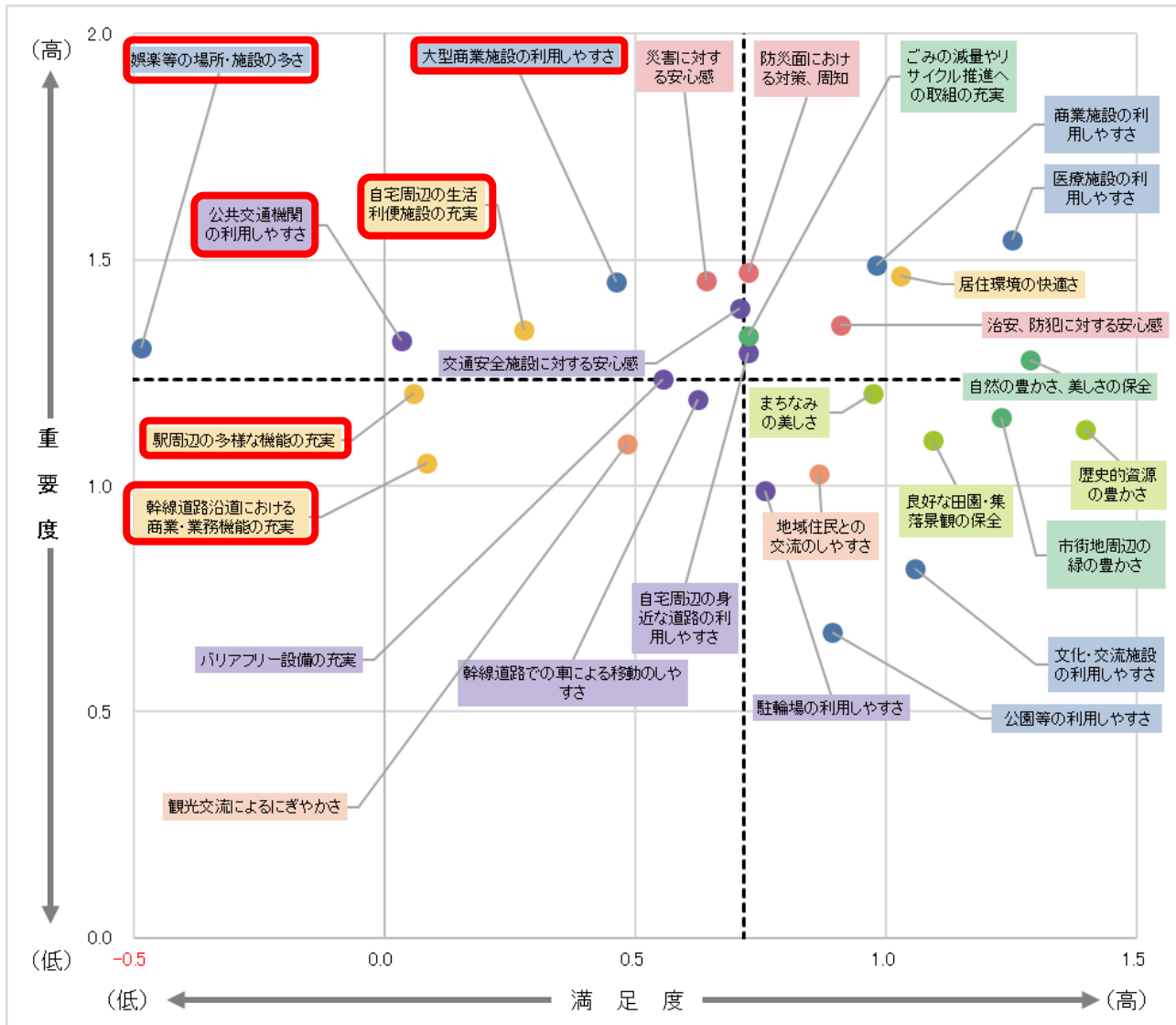
▼出雲市において大切なもの（n=2,177）※複数回答可



(2) 市民のニーズ（高校生アンケート）

- 駅、幹線道路周辺の商業施設や娯楽施設の充実が望まれています。
- 公共交通機関の利用しやすさに対する重要度が比較的高く、満足度は低くなっています。

▼満足度・重要度



4. まちづくりの課題

社会経済情勢の変化や出雲市の現状、市民アンケートの結果等を踏まえ、今後のまちづくりに向けた課題を次のとおり整理しています。

課題 1 人口減少を見据えた都市構造の転換による適正な市街地整備

- 将来的な人口減少を見据えた、「コンパクト・プラス・ネットワーク」の考えに基づく都市構造の見直し
- 適正な土地利用コントロールや都市機能の適正配置による、効率的な市街地整備
- 必要な都市基盤の整備による生活環境の改善

＜課題 1 に関連する社会経済情勢、出雲市の状況及び市民意向＞

社会経済情勢	● 将来の人口減少、高齢化の進展を見据えた、コンパクト・プラス・ネットワークによるまちづくりが必要となっています。 ● 都市の中心部等において、未利用の土地や空き家が増加する都市のスポンジ化が問題となっています。
出雲市の状況	● 自然減が社会増を上回っており、中長期的には人口が減少すると見込まれています。 ● 用途地域周辺で宅地化が進行している地域があり、今後も開発需要が見込まれます。 ● 普通建設事業費が増加傾向にあり、都市施設の老朽化対策や維持管理に必要な予算の確保に課題があります。
市民意向	● 駅周辺の商業施設、都市機能に対する満足度が低く、都市機能の充実が望まれています。 ● 自宅周辺の生活機能の充実など、居住環境の快適さを重視する意見が多く見られます。 ● 定住意向は高い一方で、生活環境が整ったまちになることを求める意見が多くみられます。

課題 2 地域の特性に応じた生活利便性確保のための拠点性の維持・拡充

- 市全体の市民生活を支えるために必要な、市中心部である出雲地域における高次都市機能の維持・拡充
- 各地域の市民生活を支えるために必要な、身近な都市機能の維持・拡充
- 各拠点が担うべき役割の明確化及び拠点間をつなぐネットワークの確保

＜課題 2 に関連する社会経済情勢、出雲市の状況及び市民意向＞

社会経済情勢	● 将来の人口減少、高齢化の進展を見据えた、コンパクト・プラス・ネットワークによるまちづくりが必要となっています。
出雲市の状況	● 用途地域内や各行政センターの周辺では、都市機能や人口が集中しており、地域の拠点としての機能を担っています。
市民意向	● 駅周辺の都市機能に対する満足度が低く、商業施設などの都市機能の充実が望まれています。 ● 自宅周辺の生活機能の充実など、居住環境の快適さを重視する意見が多くみられます。 ● 生活環境が整ったまちを望む意見が多くみられます。

課題3 市民の暮らしを支える公共交通ネットワークの充実

- 環境負荷の低減と市民活動の円滑化に向けた、自家用車に依存しない公共交通ネットワークの充実
- 市中心部や郊外・山間部など、各地域の特性に応じた移動手段の提供

＜課題3に関連する社会経済情勢、出雲市の状況及び市民意向＞

社会経済情勢	● 将来の人口減少、高齢化の進展を見据えた、コンパクト・プラス・ネットワークによるまちづくりが必要となっています。
出雲市の状況	● 主な鉄道駅利用者数及びバス(生活バス路線)の利用者数はコロナ禍で減少しましたが、回復傾向にあります。 ● 地域によっては、病院や商店などの日常生活を支える施設が徒歩圏内にない状況です。
市民意向	● 公共交通機関の利用しやすさに対する満足度が比較的低くなっています。

課題4 観光をはじめとする各種産業の活性化

- 既存産業の維持や新たな雇用機会の創出
- 高規格道路の整備、出雲縁結び空港の活用による流通基盤の強化
- 日本を代表する観光名所である出雲大社をはじめとする観光・歴史資源の保全・活用による、国内外からの交流人口の確保

＜課題4に関連する社会経済情勢、出雲市の状況及び市民意向＞

社会経済情勢	● 国内旅行消費額は、令和5年(2023)はコロナ禍前の99.8%まで回復し、国内旅行者一人当たりの旅行支出も増加しています。 ● 訪日外国人旅行者数はコロナ禍前に大きく増加し、令和5年(2023)はコロナ禍前の78%まで回復しています。
出雲市の状況	● 観光入込客数は、出雲大社の平成の大遷宮以降、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を除いて高い水準を維持しています。 ● 山陰道は、出雲市内全区間が供用開始しました。 ● 山陰道インターチェンジの立地を生かした新たな工業団地の整備・計画が進められています。
市民意向	● 「働き場所の多さ」に対する満足度が低くなっています。 ● 市の将来像として「会社や工場などが立地し働く場所が多いまち」や「歴史・文化を生かした観光のまち」を望む意見が多くみられます。

課題 5 今後発生し得る自然災害への対応

- 内水氾濫、洪水、土砂、地震、津波等の災害特性を踏まえた、ハード・ソフト両面からの防災・減災対策
- 今後発生し得る各種災害を考慮した、都市基盤の整備、居住や都市機能の適正化

＜課題 5 に関連する社会経済情勢、出雲市の状況及び市民意向＞

社会経済情勢	● 災害が頻発化・激甚化する中、河川流域全体での防災・減災の取組が求められています。 ● 今後発生し得る各種災害を考慮した事前防災・減災の取組が求められています。 ● 将来の人口減少、高齢化の進展を見据えた、コンパクト・プラス・ネットワークによるまちづくりが必要となっています。
出雲市の状況	● 斐伊川、神戸川の洪水浸水想定区域は、出雲平野の広い範囲で浸水が想定され、一部の用途地域内でも想定浸水深が 3.0m 以上となっている所もみられます。 ● 土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域は、出雲平野の北側及び南側の麓部、山間部の河川及び溪流、国県道沿道などで多数指定箇所があるほか、用途地域内においても指定箇所がみられる状況です。
市民意向	● 災害に対する安心感や防災面に対する満足度が低く、重要視する意見が多く見られます。 ● 身近なまちの将来像として「防災・減災対策が講じられた安全なまち」を求める意見が多くみられます。

課題 6 多様な主体が共存する地域コミュニティの維持・活性化

- 外国人住民の増加に伴い、国籍や言語、文化、価値観の多様化が進む中で、今後も増加が予想される高齢者、次代を担う子どもや子育て世代等の多様な主体によるコミュニティの形成
- 地縁的なつながりや助け合いを育むことによる、地域コミュニティの維持・活性化

＜課題 6 に関連する社会経済情勢、出雲市の状況及び市民意向＞

社会経済情勢	● 価値観やライフスタイルの多様化が進んでいます。 ● 国籍、性別、性的指向、性自認、年齢、障がいの有無などにかかわらず、誰もが活躍できる社会の実現が求められています。
出雲市の状況	● 世帯数が増加している要因として、核家族や単身世帯の増加が考えられます。 ● 自治会加入率が低下しており、住民同士のつながりが希薄になる懸念があります。 ● 外国人住民が増加しており、多様な文化が共生する社会の実現が必要となっています。
市民意向	● 地域住民との交流のしやすさを重要視する意見が多くみられます。

課題 7 特徴ある豊かな自然・景観資源の保全と活用

- 日本ジオパークに認定された「島根半島・宍道湖中海ジオパーク」やラムサール条約に登録された「宍道湖」、特別天然記念物「トキ」等、豊富な自然資源や生態系の保全・活用
- 長い海岸線や大きな湖、広大な田園風景、山間の自然景観等、市の特徴ある景観資源の保全

＜課題 7 に関連する社会経済情勢、出雲市の状況及び市民意向＞

社会経済情勢	● 全世界で地球環境問題への関心が高まっており、地球環境を守る取組が進められています。
出雲市の状況	● ラムサール条約に登録された宍道湖や古代出雲文化をはじめ、環境、観光、産業、芸術文化など、様々な分野で周辺市町と連携が図られています。 ● 特徴ある自然的景観と、暮らしに根付いた歴史的な景観、都市的な景観など、地形的な特性や文化的な特性で構成される様々な景観を有しています。 ● 出雲大社のほか、出雲日御碕灯台や須佐神社、一畑薬師など観光・歴史資源が豊富であり、特徴ある景観となっています。
市民意向	● 山・川・海などの自然の豊かさ・美しさ、市街地周辺の緑の豊かさに対する満足度が高く、それらを重視する意見も多く見られます。 ● 神社・寺・史跡などの歴史的資源の豊かさに対する満足度が高くなっています。 ● 市の将来像として「風景の美しさや自然・田園環境の保全」を求める意見が多くみられます。

